

七大戦優勝



発行所

東北大学学友会報道部

川内：川内サークル会館 320

〒980-8691

仙台中央郵便局私書箱第 68 号

印刷所 東北プリント

号外
七大戦優勝
記念号

最終種目で逆転 7種目制覇、主管校破る

第52回七大戦において本学が総合優勝を果たした。今大会は主管が大坂大学で、大阪府を中心に競技が行われた。最後まで京都大学と優勝を争う展開。最終種目の卓球で好成績を残し、逆転優勝を果たした。本学の優勝は第47回大会以来、5年ぶり10度目。

七大戦は旧帝国大学の運動部が参加し、各種目の成績を点数化したものにより順位を競う大会である。今大会は序盤から上位が一種目ごとに変わる大混戦。本学もその渦中にいた。中盤は京都大学。本学は追いつ

け苦しい展開であった。最終種目を残し、本学は0.5ポイント差の2位。すべての結果は最終種目の卓球に委ねられた。最終種目の卓球は本学が男子5位で女子1位。対する京都大学は男子4位で女子3位。本学の総合ポイントが216ポイントとなり、京都大学に2.5ポイントの差をつけ、見事に逆転優勝を成し遂げた。本学が優勝した種目は剣道男子、硬式テニス男子、柔道、スキー、相撲、ソフトテニス男女、卓球女子。昨年度の大会と比べ、順位が上昇した種目は19種目に上った。今大会は体育部の日頃の練習の成果が存分に

発揮された結果となった。来年度の七大戦は京都大学が主管で行われる。今年度の勢いそのままに連覇を目指したい。

男子 剣道部

「優勝した感想をお聞かせください。男子主将(以下、木田)男子主将(以下、木田)とにかく嬉しかったので」と思いいます。

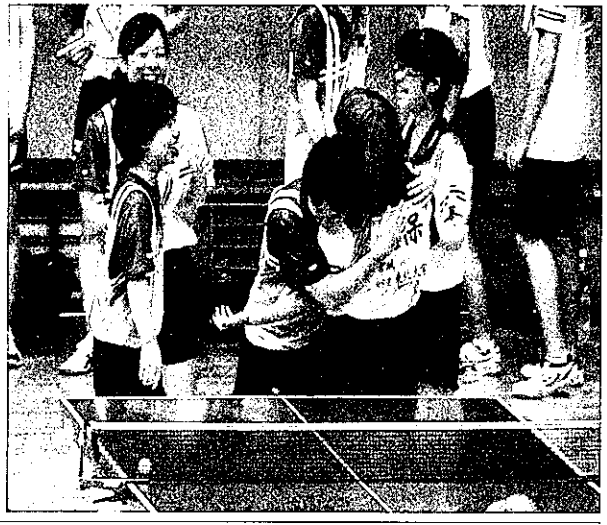
「普段はどのような環境で練習しているのですか。木田 普段は、片平キャンパスで週5回ほど練習しています。目標は勿論全日本大会への出場であるが、剣道を通して人間形成も図っていきたくは、是非、多くの新入生が大学でも剣道を続けてほしい。」

「最後にメッセージをお願いします。木田 部員の中で諦めてしまう人も高専時代から続けたい人も、部員にとって上を目指して欲しい。私自身も、上を目指して欲しい。是非、私達と卓球を続けていて良かったなと思います。」

男子 卓球部

「工夫している点は何ですか。木田 東北大学の卓球部は、とにかく人数が多いです。そのため、試合の時は大きな声で応援してもらっているのが強みだと思います。私達はこれを数の暴力と呼んでいます(笑)。」

「伊藤 応援の時もいつもはレギュラーのみでしたが、七大戦の時は全員で応援する事が出来ました。」



「卓球の魅力は何ですか。木田 他のスポーツと比べて、より頭を使うところだと思っています。卓球では体格以上に技術、戦術が重要になってくるからです。伊藤 私は中学から卓球をやっていたのですが、上達したり良い結果が出たりすると卓球を続けていて良かったなと思います。」

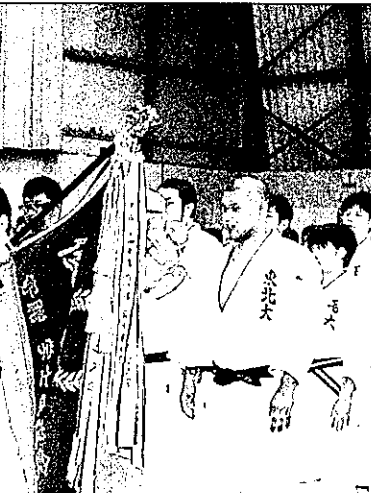
栄冠を掴んだ男子剣道部

まさにドラマチックな勝利であった。同じ勝敗・得点で京都大、九州大と並んでいたが最後は勝者数トップとなつて優勝。あきらめない戦いを繰り広げた結果だった。「引退試合である七大戦で優勝できて本当に良かった。期待されながら結果を出せていなかったのが、非常にうれし」と主将を務めた後藤理さんは話す。優勝した要因は、あきらめない戦いを繰り広げたことと大きい。チームの明確な目標と練習環境も万全とはいえない。しかし、息があがるほど基礎練習を徹底し、環

境を克服した。厳しい練習環境にもかかわらず部員たちが口をそろえて言うのは、剣道は本当に楽しいこと。明るい雰囲気があること。チームを活性化させた。来年度は浅川芳直さんが主将に就任し、一丸となつて戦ってゆく。「剣道部は今、勢いに乗って

去年は準備不足で悔しい思いをしたので、今年優勝できたことで雪辱を果たすことができたと大変うれしく思います。今年も1年生が新たに3人入部してくれました。3人とも意欲的に練習してくれ、彼らの活躍のおかげでもあると思います。相撲部に入ってくるのは、大学から相撲を始めよう、という学生が多いんです。しかし今年は高校からの相撲経験者で、インターハイや国体などでも好成績を残した選手が入ってきてくれました。その選手の指導のおかげもあり、今年の相撲部員の技術は大きく向上したと思います。また今年も新たな試みとして、他大との合宿も行いました。これにより他大学の生の練習に触れ

「これから課題は何ですか。木田 際どい打球が取れずに、普段のラリーがあまり上手く出来ないのが課題です。また、皆やる気が



「練習場の床が固く非常に大変。でも固いからこそ鍛えられたのかもしれない。多目的用の道場を使用しているの練習環境も万全とはいえない。しかし、息があがるほど基礎練習を徹底し、環

「伊藤 部員が多いので、いつもにぎやかな雰囲気です。個人的な人が多いと思います。」

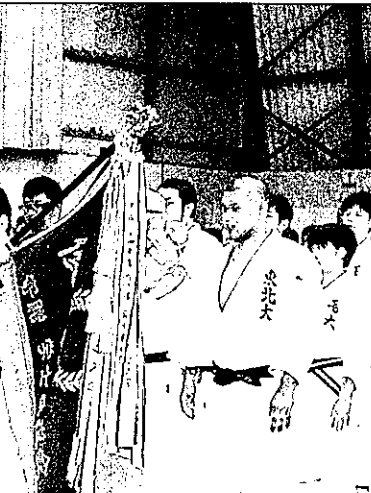
「最後にメッセージをお願いします。木田 部員の中で諦めてしまう人も高専時代から続けたい人も、部員にとって上を目指して欲しい。私自身も、上を目指して欲しい。是非、私達と卓球を続けていて良かったなと思います。」

相撲部 主将 菊地厚太 さんのコメント

去年は準備不足で悔しい思いをしたので、今年優勝できたことで雪辱を果たすことができたと大変うれしく思います。今年も1年生が新たに3人入部してくれました。3人とも意欲的に練習してくれ、彼らの活躍のおかげでもあると思います。相撲部に入ってくるのは、大学から相撲を始めよう、という学生が多いんです。しかし今年は高校からの相撲経験者で、インターハイや国体などでも好成績を残した選手が入ってきてくれました。その選手の指導のおかげもあり、今年の相撲部員の技術は大きく向上したと思います。また今年も新たな試みとして、他大との合宿も行いました。これにより他大学の生の練習に触れ

「伊藤 部員が多いので、いつもにぎやかな雰囲気です。個人的な人が多いと思います。」

「最後にメッセージをお願いします。木田 部員の中で諦めてしまう人も高専時代から続けたい人も、部員にとって上を目指して欲しい。私自身も、上を目指して欲しい。是非、私達と卓球を続けていて良かったなと思います。」



「練習場の床が固く非常に大変。でも固いからこそ鍛えられたのかもしれない。多目的用の道場を使用しているの練習環境も万全とはいえない。しかし、息があがるほど基礎練習を徹底し、環

「伊藤 部員が多いので、いつもにぎやかな雰囲気です。個人的な人が多いと思います。」

「最後にメッセージをお願いします。木田 部員の中で諦めてしまう人も高専時代から続けたい人も、部員にとって上を目指して欲しい。私自身も、上を目指して欲しい。是非、私達と卓球を続けていて良かったなと思います。」